

ブロワーの故障とその原因

故障状況	主な原因
1 廻らない	G、L 2
2 油切れによる焼付	A、B、C、D、E、H、M
3 回転が重い	B、C、D、G、L
4 空気量不足	D、F、P
5 過熱する	B、C、D、E、L、M、N
6 油の減少が早い	B、C、D、K、5)
7 油漏れ	I、O
8 異状音の発生	B、C、D、E、G、J、L、N、O

- A 無負荷運転
- B 過負荷運転
- C 昇圧(バルブ閉鎖、散気管、配管詰り)
- D 吸気口(エアフィルター)目詰り
- E 点滴ノズル詰り(潤滑油不足)
- F ベルトのスリップ
- G ゴミの混入
- H 水の混入、異種オイルの混入
- I オイルシール不良or寿命
- J ベ어링不良or寿命
- K 点滴ノズル不良
- L 運搬中の衝撃(ローターの左右へのより)
- M 機械室温度が高過ぎる
- N 回転が早過ぎる
- O 組立、加工、熔接不良
- P 配管からのエア漏れ

ブロワーの修理方法

ブロワーが万一故障した場合は、故障の原因をよく確認してから修理を行ってください。故障による取替主要部品は部品表によりお手配ください。

I ブロワー本機の分解要領

1. ベルトカバーおよびベルトを外す。
2. 反負荷側のエンドブラケット(TOHIN マーク側)の締付ボルトを緩める。緩めたボルトを2ヶ使用してブラケットにあるネジ孔にねじ込んでブラケットをぬく。
3. Vプーリーをシャフトから抜く。
4. 負荷側エンドブラケット(Vプーリー側)の締付ネジを緩めて引き抜く。

⑩ ドライバーなどでこじらないこと。

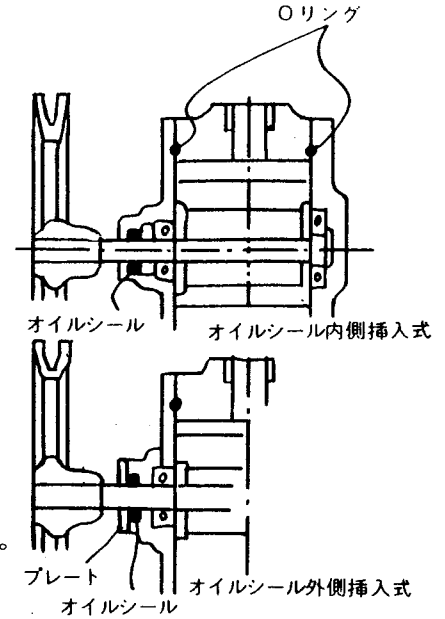
II ブロワー本機の修理

本体を分解したら羽根、ローター、リング、ケーシングの凸凹などを、こまかいペーパーまたは油砥石で落し、キズをつけないよう洗油またはガソリンで良く洗い、きれいに拭いてから組立て直してください。初期の焼付、異種オイルおよび水の混入の場合など、上記方法で修理できます。ベ어링不良、オイルシール不良の場合は交換願います。またOリング、は必ず新しいものと交換願います。

III ブロワー本機の組立要領

1. ノックピンに合せ反負荷側のエンドブラケットをシリンダーに締付ける(Oリングを忘れぬこと)
2. ローターを挿入する。
3. 羽根を4枚リング外にきちっと入れる。
4. P側エンドブラケットをローター軸にノックピンに合せ入れシリンダーに締付ける。(Oリングを忘れぬこと)
5. プーリーをシャフトに固定。手でプーリーを廻しながらビニールハンマーで、エンドブラケットの面を軽くたたきながら軽く廻る位置をきめる。この場合必ず矢印方向に廻すこと。

⑩ オイルシール交換の場合、プーリー側エンドブラケット外側から入れてあるもの 分解の必要はありません。プレートははずしオイルシールを引、き交換願います。



機種	吐出口径	主要使用部品表						
		ベ어링	オイルシール	Oリング	ブロワープーリー	モートルプーリー 50Hz	60Hz	Vベルト ()内60Hz
HC-251S X0.4KW	3/4"	6203zz	16307	1517-31	8"	2 1/2"	2"	A40 X1本
HC-30S X0.4KW	1"	6204zz	19357	1517-34	10"	3"	2 1/2"	A44 X1本
HC-301S X0.75KW	1"	6204zz	19357	1517-34	10"	3 1/2"	3"	A45 X1本 (A44 X1本)
HC-40S X0.75KW	1 1/4"	6206zz	284811	1517-40	12"	4"	3 1/2"	A52 X2本
HC-401S X1.5KW	1 1/4"	6206zz	244 11	1517-40	12"	4 1/2"	4"	A52 X2本
HC-50S X1.5KW	1 1/2"	6207zz	325211	1517-48	14"	4"	3 1/2"	A64 X2本
HC-501S X2.2KW	1 1/2"	6207zz	325211	1517-48	14"	4 1/2"	4"	A64 X2本
HC-60S X2.2KW	2"	6208zz	385811	G 260	16"	5"	4"	B74 X2本 (B72 X2本)
HC-80S X3.7KW	2 1/2"	6208zz	385811	G 290	18"	5 1/2"	4 1/2"	B84 X2本
HC-100S X5.5KW	3"	6208zz	385811	1516-81	20"	5 1/2"	4 1/2"	B93 X3本